

経営比較分析表（平成30年度決算）

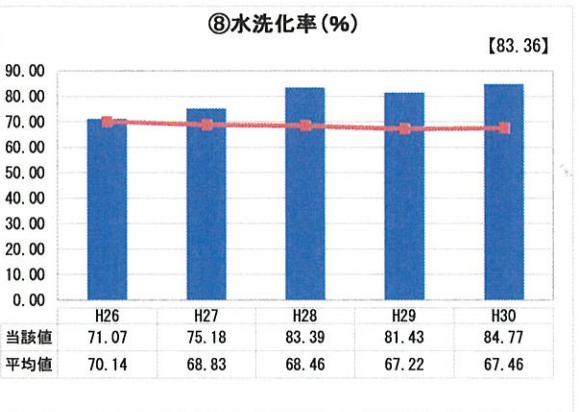
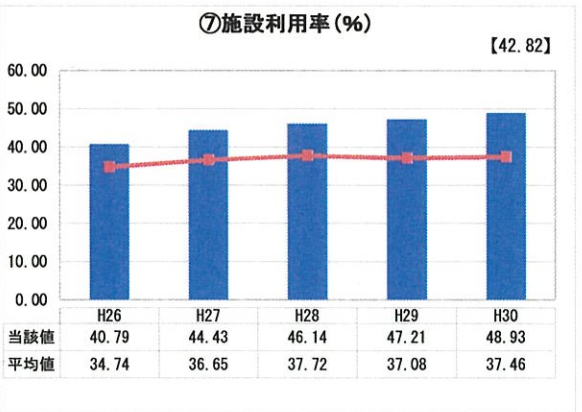
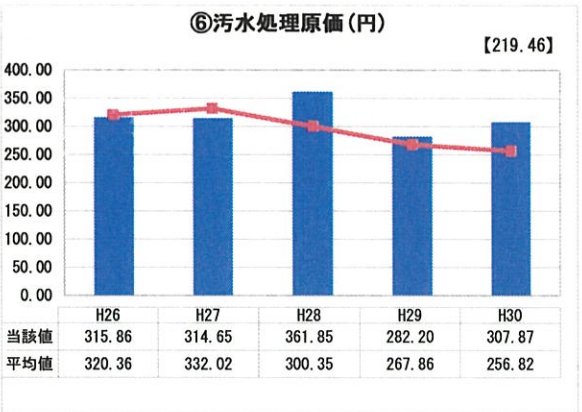
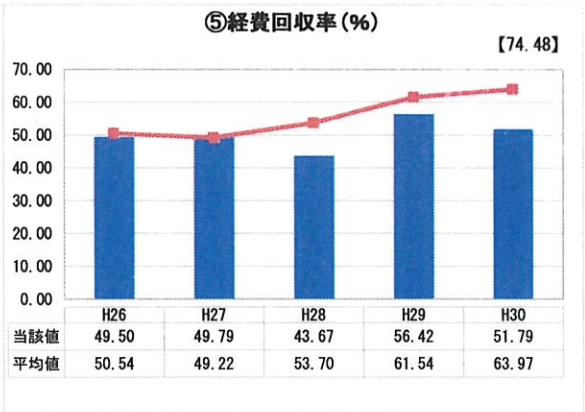
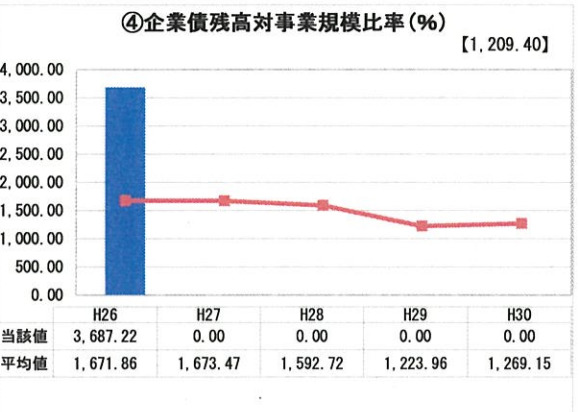
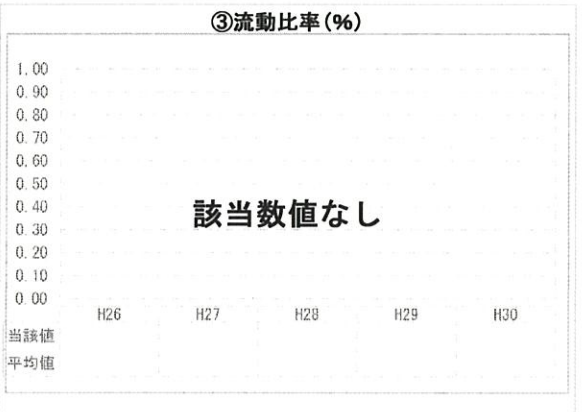
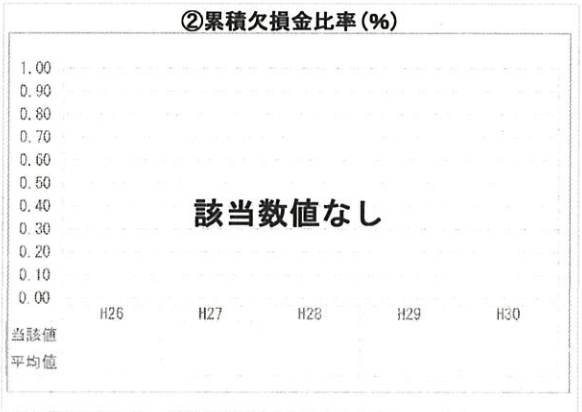
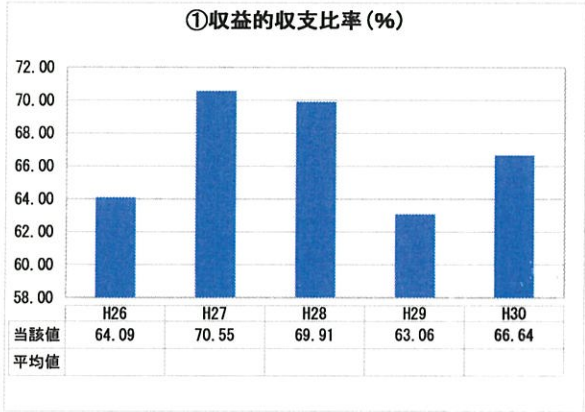
埼玉県 横瀬町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	特定環境保全公共下水道	D3	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	38.73	98.86	3,240

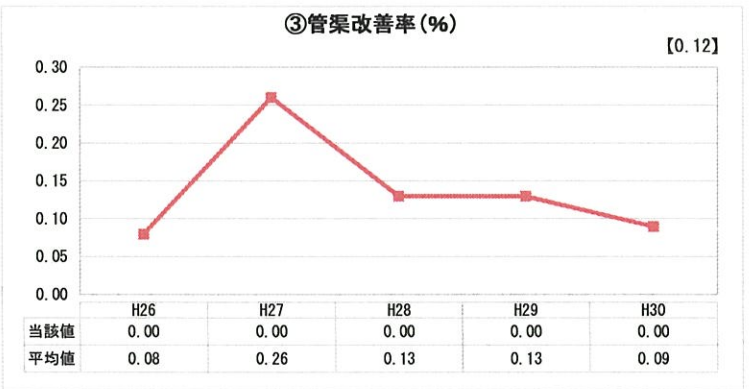
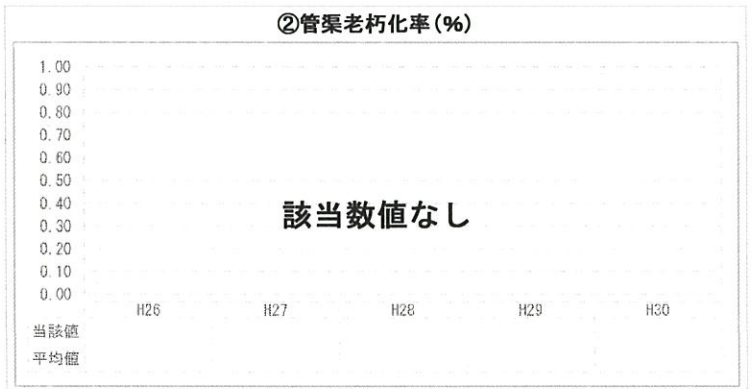
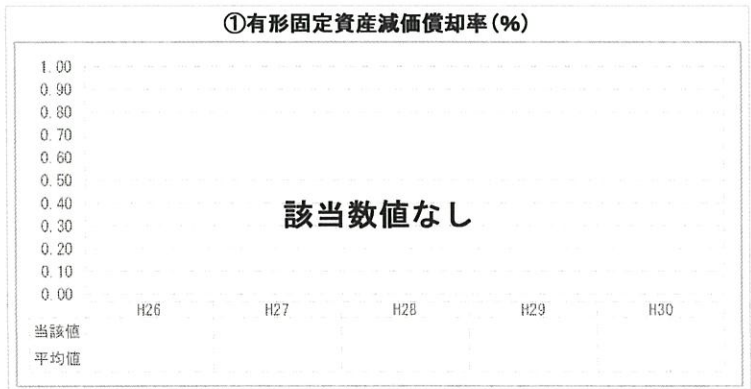
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
8,322	49.36	168.60
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
3,204	1.10	2,912.73

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①収益的収支比率
前年度より回復し赤字割合が減となっている。これは施設維持管理費が減となった一方で、供用開始区域の拡大による使用料の増や分流式下水道等に要する経費に充てるため一般会計からの繰入金の増を行ったため、総収益が増となり改善したものである。

④企業債残高対事業規模比率
下水道事業における資本費に対する繰出基準に基づき、地方債償還に要する資金の全部を一般会計で負担することにより平成27年度から0%となっている。

⑤経費回収率
経費回収率については平成26年度から50%前後で推移しているが、類似団体の平均値についてはここ数年上昇傾向にあり、類似団体を若干下回る割合となっている。

⑥汚水処理原価
昨年以上に類似団体を上回る数値となった。今後も効率的な施設運営による維持管理費の削減や接続率の向上による使用料収入の確保について検討していく必要がある。

⑦施設利用率
施設利用率については、類似団体と比較し、上回る数値となっている。年々整備済区域が拡大し、接続世帯数の増加に伴い流入汚水量が増加していることから徐々に施設利用率は上昇傾向にある。今後は計画区域の人口動態等の将来分析を行い、施設の遊休状態をできるだけ解消していく検討が必要である。

⑧水洗化率
平成30年度は80%を超えており類似団体と比較して高い数値となっている。処理区域内の戸別訪問等により、下水道事業への理解と接続を促し、水洗化率を高め、使用料収入の適正な確保につなげていく必要がある。

2. 老朽化の状況について
当町の公共下水道は、平成19年度より供用開始をしており、管渠の老朽化はそれ程進行していない。そのため、これまで管渠の老朽化等による更新は実施していない。

しかし、稼働後10年を経過したことから汚水処理施設の老朽化が随所に見られる状況にあり、計画的に施設修繕を行うことも必要となっている。今後は、ストックマネジメントの考え方を取り入れ、適正な施設・管渠の維持管理、計画的な更新ができるように取り組む必要がある。

全体総括

当町の下水道事業は、平成36年度に全体計画区域における面整備が完了し、その後は施設等の維持管理が中心となる予定である。水環境の保全や住民の衛生的で文化的な生活環境の実現のため、当該下水道事業は必要不可欠なものであるが、現状の分析結果を考慮すると、決して効率的、経済的に事業を運営している状況でないことがわかる。そのため、今後は計画的に適切な施設管理・運営・更新を行い、維持管理費等の削減方法を検討しつつ、下水道接続率の向上による有収水量の増を目指す取組が求められる。また、区域内人口の増減なども分析し、施設規模を実情に見合った規模になるよう見直すことも必要である。将来に向けた取組を様々な角度から検討することが求められるが、公営企業は、その運営経費を料金収入で負担することが基本である独立採算制の考え方にに基づき運営される。当町の地理的条件や人口密度等を総合的に考慮すると単純に使用料を引き上げることも難しい状況であるが、今後は適正な料金体系についても検討していく必要がある。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。